

増える離婚家庭

子どもへの不安や 怒り受け止めて

離婚によるひとり親家庭や再婚家庭が増える中、子どもたちへの精神的、経済的な支援は後手に回っている。当事者や専門家は「親の都合で困難を抱えることになる子どもたちの不安や怒りを、きちんと受け止めてあげてほしい」と訴える。

ひとり親・再婚家庭の子ども k(東京) 理事の光本歩さんを支援するNPO法人「Win」(26)は、自身も両親の離婚を経



生徒に学習を指導する光本歩さん(左)

静岡県熱海市の「あんふあん」

離婚家庭の 子どもの支援団体



名称	所在地	事業内容
NPOびじっと離婚と子ども問題支援センター	横浜市	面会交流支援
NPO法人Wink	東京都新宿区 静岡県熱海市	学習支援、 面会交流支援
一般社団法人チャンス	名古屋市	学習支援、 面会交流支援
公益社団法人家庭問題情報センター(FPIC)	各地に 相談室あり	面会交流 支援

験している。理由は母親の借金だった。「父親の怒鳴り声を聞くのがいやで、耳をふさいでベランダへ逃げたこともある。学校にいても『母親が自殺したらどうしよう』と不安で仕方がなかった」それでも心配をかけまいと、両親の前では元気に振る舞った。離婚直前、母親から、父とは再婚で、前夫との間にも子どもがいることを打ち明けられた。

状況説明、別居親との交流大切

借金は養育費のためだったと聞き「どうして教えてくれなかったの!」と問いただしたが、母は黙ったまま。結局、父子3人で借金の取り立てから逃げるように故郷を離れた。

高校へ進学、教師を夢見ながらも、経済的な理由から大学進学をあきらめかけた時、相談に乗ってくれたのが、同じくひとり親家庭で育った高校の教諭だったという。

「ああ、私も家庭環境のせいにはかりしてはだめなんだ、と思いました。目の前にモデルがいたから、がんばれた」大学には進学したものの、教科書代が負担となり中退。それでも夢を追い続け、派遣社員などを経て、2009年に静岡県熱海市で低価格の学習塾「あんふあん」をオープンした。支援「される側」から「する側」へ。現在、70人あまりの生徒の大半がひとり親家庭の子だ。「たとえ幼い子どもでも、家族の一員なんだから、うそをつかずに状況は説明してほしい」

と光本さん。「どうして自分こんな目に遭わなければならぬの!」と思いながらも、みんな親を気遣っている。親を本気で嫌いな子はいません」

離婚と養育の問題に詳しい東京国際大の小田切紀子教授(臨床心理学)は「日本では離婚家庭への社会的な差別や偏見が根強く、子どもへのサポートも拒否する親が多い」と指摘する。

小田切教授によると、米国では離婚後も子どもは共同養育・共同親権という考え方が浸透している。多くの州では、離婚する際、両親は教育プログラムを受講し、元配偶者と協力して子育てをするためのスキルを学ぶことが義務づけられているという。

「離婚は、子どもにとっては理不尽で受け入れがたいもの。子どもなりに理由を理解し、納得するためにも、親は最低限、離婚した相手との面会交流を保証してあげてほしい」と小田切教授は話している。